



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

東京都立大学

令和8 (2026)年度

2025.10.31

総合研究推進機構

博士人材支援室

博士後期課程学生支援事業説明会

[本日のプログラム]

- (1) 12:10~12:20 **本学の博士後期課程支援事業について**
博士人材支援室長:堀田貴嗣(研究担当副学長・総合研究推進機構長)
- (2) 12:20~12:50 **応募手続き (SPRING・BOOST) /
他プロジェクトの概要について**
十津川剛(総合研究推進機構・上席URA/URA専門課長)
- (3) 12:50~13:00 質疑応答

※ みやこMIRAI及び研究力強化支援プロジェクトの申請に係る説明会は、2026年2月頃実施予定です。

※ 個人のPC不具合には対応致しかねます。

※ 本説明会の映像と資料は、後日、総合研究推進機構のHPにて期間限定で公開いたします。



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

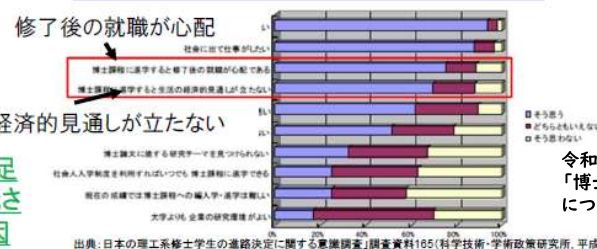
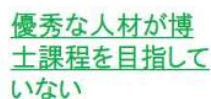
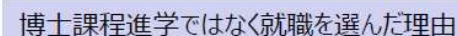
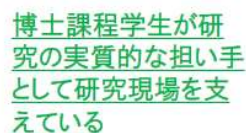
本学の博士後期課程支援事業について

事業統括 堀田 貴嗣

理学研究科・物理学専攻・教授
副学長(研究・情報・都連携担当)
総合研究推進機構長
博士人材支援室長

博士課程学生は、先端研究の現場の重要な担い手
将来の科学技術イノベーションを担う貴重な存在 であるが、
博士課程への入学者は減少、優秀な学生が研究者を志望しない傾向（量・質の不足）
【原因】 ①博士課程における経済的な不安 ②修了後のキャリアパスの不透明さ

「処遇向上」と「ポスト確保」両方の環境の抜本的改善（具体的アクション）が必要



令和2年10月30日
「博士課程学生の処遇の向上
について」より抜粋

国による経済的支援の大幅拡充



博士課程学生支援の施策体系(3つの柱)

①トップ層の若手研究者の個人支援

【主な取組】特別研究員事業（DC）

支援額：240万円（+科研費最大150万円応募可能）
+ 最終年度の在籍者*に特別手当36万円/年
（*採用期間中に優れた研究成果を上げ、更なる進捗が期待される者）
支援規模：約4,100人
令和7年度当初予算額（案）：106億円
（日本学術振興会（JSPS）の運営費交付金の内数）

→ **トップ研究者への登竜門として支援を充実**

③RA（リサーチ・アシスタント）経費の適正化

【主な取組】創発的研究支援事業

（博士課程学生等へのRA支援充実）

支援額：最大240万円（RAとしての労働対価）
支援規模：約300人 ※既に採択した課題への支援を含む。
令和5年度補正予算額：6億円
（科学技術振興機構（JST）創発的研究推進基金）
別途、大学ファンドの運用益も充当

→ **適正な対価の支払いを当たり前！**

※競争的研究費等からの、適切な水準でのRA経費の支給を推進

【参考】第6期科学技術・イノベーション基本計画

2025年度までに、生活費相当額（年180万円以上）を受給する博士後期課程学生を従来の3倍（約22,500人）に増加

②所属大学を通じた機関支援

【主な取組】

博士後期課程学生の処遇向上と研究環境確保（SPRING）

○ 優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための経済的支援（生活費相当額及び研究費）及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するためのキャリアパス整備を一体として行う実力と意欲のある大学を支援する。

支援額：原則290万円
（生活費相当額・研究費とキャリアパス整備費を含む）
支援規模：約11,100人
令和5年度補正予算額：499億円
令和7年度当初予算額（案）：0.3億円
別途、大学ファンドの運用益も充当

博士国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成（BOOST：次世代AI人材育成プログラム）

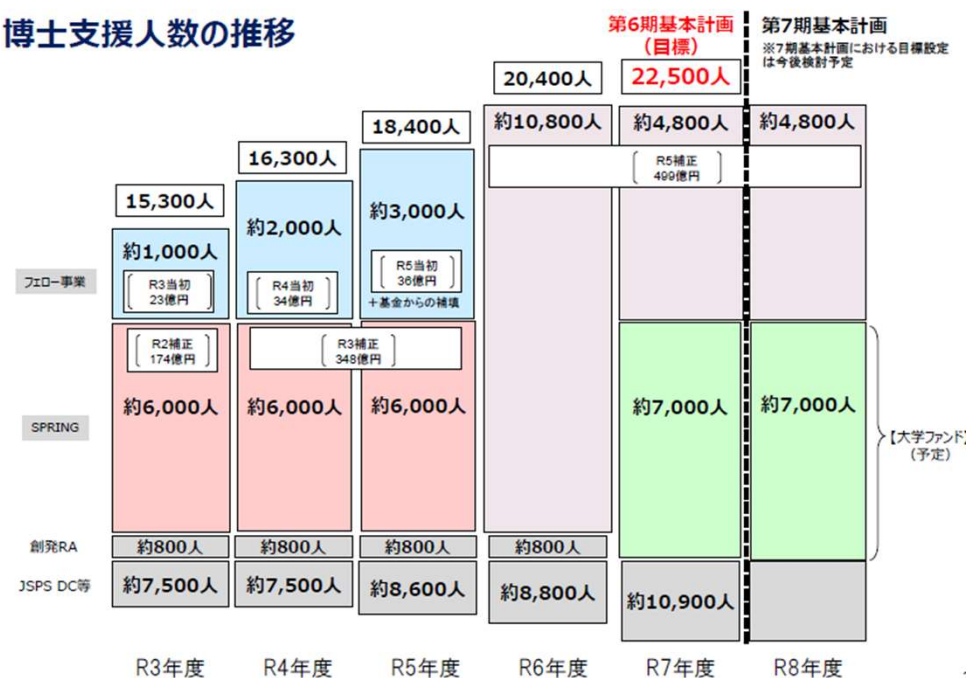
○ 国家戦略分野への挑戦を志す研究者・博士後期課程学生に特化した支援事業

（以下博士支援抜粋）

支援額：原則390万円 支援規模：約400人
令和5年度補正予算額：70億円（全体213億円）

→ **博士人材の多様な活躍に向けて、経済的支援とキャリアパス整備を一体的に実施**

博士支援人数の推移



科学技術・学術審議会人材委員会次世代人材育成WG（第1回）
令和7年4月18日
「博士後期課程学生支援に関する参考資料」より抜粋

博士人材の民間企業での活躍に向けた取り組み



博士人材の民間企業における活躍促進に向けた取組



文部科学省



経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

1. 開催の経緯

- 令和6年8月、経済産業省と文部科学省が共同して、「博士人材の民間企業における活躍促進に向けた検討会」を立ち上げ。
⇒ 民間企業への就職を進めるための大学による支援や、企業が採用のために工夫できる事項について検討
- 令和7年3月26日に開催した第7回検討会にて、「博士人材の民間企業における活躍促進に向けたガイドブック」「企業で活躍する博士人材ロールモデル事例集」「博士人材ファクトブック」を公表。



2. とりまとめ資料



- 企業や大学が取り組むことが奨励される事項を項目ごとに分類して解説
 - ・ インターンシップや入社時の処遇、企業との交流機会・出会いの場の提供など、各項目で具体的な取組事例を紹介
 - ・ 学生に向けて、修了後の進路はアカデミアに限られない、長期的なキャリア観が重要とのメッセージを記載



- 産業界における多様な博士人材の活躍事例を紹介（20社、25名）
 - ・ ①専門性を生かした活躍
 - ・ ②汎用的な能力を生かした活躍
 - ・ ③異なる専門性を身に付けた活躍
 - ・ ④グローバルに活躍
 - ・ ⑤人文社会系人材の活躍に整理して取りまとめ



- 博士課程学生の就職の一助となるデータを紹介
 - ・ 就職四季報等の情報に基づいた初任給や採用数等のデータ

文部科学省と経済産業省が連携し、委員や産業界・大学等の協力も得ながら普及活動を展開
⇒ 博士人材の民間企業での活躍を促進

12



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

本学の博士後期課程学生支援の概要

本学の博士人材支援について



背景

- 2023年度より『東京都立大学 研究力強化推進プロジェクト』をスタート。
- プロジェクトでは、「7つの戦略と21の取組」を策定。プロジェクトにおいて、博士後期課程学生支援を明記。

「戦略6 若手研究者の人材育成」

○博士後期課程学生支援

博士前期課程から直接博士後期課程に進学する全ての学生に向けた経済支援を実現します。また、外部資金等を活用した更なる経済支援に加え、多様なキャリアパス形成に資する施策を実施します。

2023年度に全学組織である 博士人材支援室を設置

- 博士人材支援室において、高度専門人材の育成方針、研究力強化、国際頭脳循環の促進、高度専門人材のトランスファラブルスキル獲得や産業界への排出のための様々な方針、施策を検討・実施

体制

総合研究推進機構

博士人材支援室

	氏名	職 位	所 属
室 長	堀田 貴嗣	教授 研究/情報/都連携 担当副学長	理学研究科・物理学専攻
副 室 長	谷口 央	教授 教育/評価担当 副学長	人文科学研究科・文化基礎論専攻
兼任教員	津村 博文	教授 総務/入試/広報担当 副学長(理事)	理学研究科・数理科学専攻
兼任教員	綾部 真雄	教授	人文科学研究科・社会行動学専攻
兼任教員	伊藤 隆	教授	理学研究科・化学専攻
兼任教員	小野 順貴	教授	システムデザイン研究科・システム デザイン専攻・情報科学域
兼任教員	成川 礼	准教授	理学研究科・生命科学専攻
構 成 員	可知 直毅	特任教授	総合研究推進機構
事務職員、URA、キャリアコーディネーター等			

	<SPRING> AR双対型博士人材育成プロジェクト	<BOOST> AI-AR 双対型博士人材育成プロジェクト	<大学独自支援> みやこMIRAIプロジェクト		<大学独自支援> 博士研究力強化支援プロジェクト ※2027年度末廃止予定
			区分1	区分2	
募集概要	既存分野を超えた新たな視点を取り入れようとする人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	次世代AI分野に特化した先端的な研究を行う人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	研究環境に専念できる環境を提供し、本学博士後期課程への進学を促進し、高度な専門人材を育成するプロジェクト。経済的支援、キャリア形成支援を実施		日本学術振興会特別研究員DCに申請して採用されなかった個人に対して経済的支援を実施
対象研究科	全研究科	全研究科 *ただし、AI関連の研究を実施している/する予定であること	全研究科	全研究科	全研究科
対象者	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が12ヶ月未満の者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が12ヶ月未満の者 - 次世代AI分野またはそれに関連する分野の研究を実施している（あるいは実施予定の）者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月1日に博士後期課程に入学予定の者、又は、在学期間が12ヶ月未満の者 2026年採用分のDC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している者 - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において博士後期課程に在学している者 - DC、SPRING、BOOSTいずれかに採用されている者 - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において、博士後期課程2年次以上の年次相当に在学している者 2026年度が採用年度となる特別研究員DC2へ申請を行っていること
募集人数	18名程度（新D1）	3名（新D1）	申請資格・要件を満たす者、全員支援（原則）		20名程度
経済的支援	- 研究奨励費（雑所得）年額240万円 - 研究費 年額30万円 ※留学生等においては研究費のみ配分	- 研究奨励費（雑所得）年額330万円 - 研究費 年額60万円	- 研究奨励費（雑所得）年額240万円 - 研究費 年額30万円（希望者のみ） - 授業料不徴収（免除）	- 研究奨励費（2年次以降、雑所得）年額180万円 ※BOOST生は年額150万円 - 研究費は各プロジェクトによる - 授業料不徴収（免除）	- 研究力強化支援奨学金（奨学金）年額180万円 ※研究費の配分無し
キャリア形成支援	メンタリング支援、キャリア・トランスファラブルスキルプログラム等の提供（履行義務あり）				無し
支援期間	標準修業年限までの最大3年間（ただし10月入学の場合は2年6か月）				1年間（単年度） （標準修業年限まで最大2回受給可）
募集期間	2025年10月28日（火）～ 11月14日（金）12:00（正午）（メ切厳守）		2026年2月を予定		
備考	- 重複応募は可能ですが、同時受給は不可です。また、重複応募する場合、プロジェクトごとに申込を行う必要があります。 - 重複申請後、BOOSTに採用された場合、BOOSTが優先されます。		区分1に申請するためには、学振DC、SPRING、BOOSTいずれかに申請している必要があります		



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

本学のSPRING・BOOSTについて

全体スキーム



次世代研究者挑戦的研究
プログラム (SPRING)

単なる奨学金
ではない

東京都立大学
領域リフレーミング
(Arena Reframing: AR)
双対型人材育成プロジェクト

個々人の研究活動



国家戦略分野の若手研究者
及び博士後期課程学生の育成
事業 (BOOST)
次世代AI人材育成プログラム
(博士後期課程学生)

単なる奨学金
ではない



東京都立大学
次世代AIを志向した
領域リフレーミング
(Arena Reframing: AR)
双対型人材育成プロジェクト

個々人の研究活動



プロジェクトの目的



SPRING

既存の学問間の連携のあり方や既知の学際的研究領域を独自の視点から捉え直し、多くの知見が出会い生まれる「領域（アリーナ）」の創生を促すことのできる人材を育成・輩出することを目的とします。

BOOST

強化分野として、特にAI分野及びAI分野における新興・融合領域（以下「次世代AI分野」）と既存の学問間の連携のあり方や、既知の学際的研究領域を独自の視点から捉え直し、多くの知見が出会い生まれる「領域（アリーナ）」の創生を促すことのできる人材を育成・輩出することを目的とします。

※これらのプロジェクトは教育プログラムであり、単なる奨学金ではないことに注意。

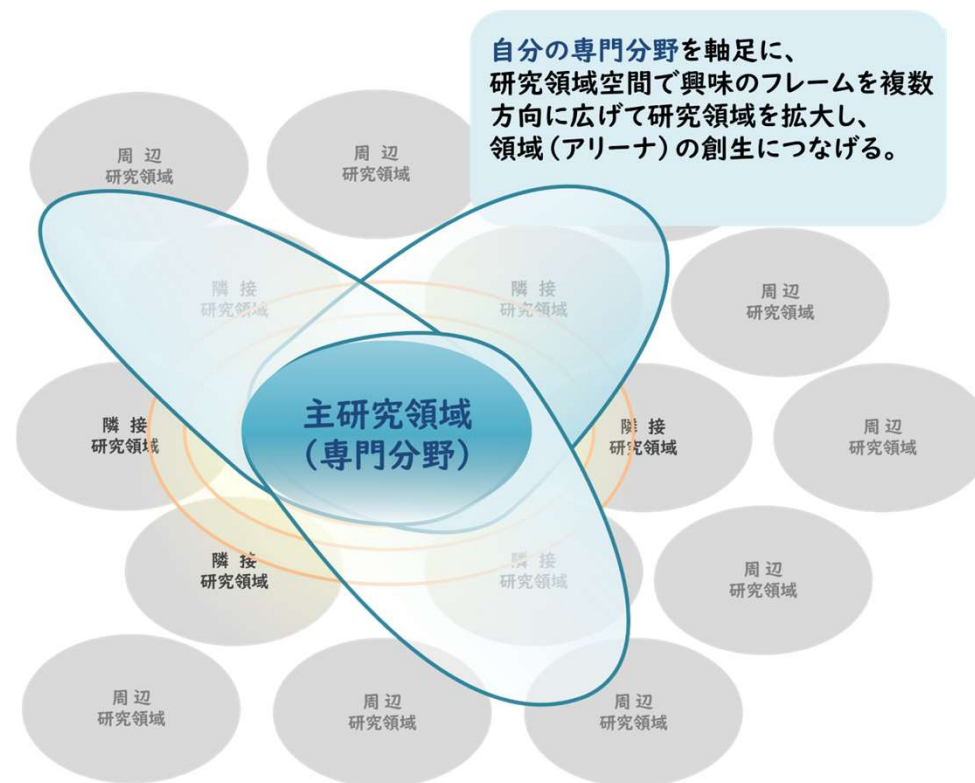
目指す人材像：領域リフレーミング（Arena Reframing:AR）双対型人材



本学では、既存の学問間の連携のあり方や既知の学際的研究領域を独自の視点から捉え直し、多くの知見が出会い生まれる「領域（アリーナ）」の創生を促すことのできる人材を育成・輩出します。

・ 領域リフレーミング（Arena Reframing:AR）とは

- － 従来の学問領域や分野の枠組みを独自の視点でとらえなおすことで、新しい視点や考え方を取り入れることを指します。すなわち、従来の枠組みに囚われず、異なる学問領域や分野を縦横無尽に組み合わせ再構成し、その中で新たな洞察やアイデアを生み出すことを意味しています。
- － 従来の学問分野を超えて、新たな「領域（アリーナ）」の創出のために、新しい視点や発想を取り入れ組み合わせることが「領域リフレーミング」の本質です。これによって新しい知識やアイデアが生まれ、学際的な研究やイノベーションが促進されることを目指しています。



【補足】BOOSTにおける次世代AI分野について



AI分野及びAI分野における新興・融合領域の例

- コンピュータサイエンス、機械学習、データマイニング、自然言語処理
情報学、バイオインフォマティクス、ジオインフォマティクス、数学、統計学
電子工学、ロボティクス、制御工学、生命科学、経済学、計量経済学
コンピューテーショナルバイオロジー、医学、ヘルスインフォマティクス 等

※これらの例に限ったものではありません。

※自身の研究が次世代AI分野あるいはそれに関連する分野であると説明できれば、専門分野は問いません。

【補足】BOOSTにおいて育成する人材像



- ① AI分野のアルゴリズム開発やデータ駆動科学等、次世代AI分野における先端研究に直接参画するような高度専門人材
- ② 研究対象の性質や特徴を理解し、AIとのマッチングを考えることで、研究・開発にブレイクスルーをもたらすことができるような高度専門人材
- ③ これまでAI（本学において、でも可）が活用されていなかった研究分野に対して、積極的にAIを活用し新たな方向性を開拓するような高度専門人材

※ 申請時、自身に当てはまる（あるいは目指す）人材像を、上記から選択していただきます。

事業統括からのメッセージ



博士人材には、その高度な知識や卓越した能力を社会で活かす道が開かれています。**博士の未来は明るい。**私はそう確信して、本学の博士後期課程学生支援を実施しています。

- (SPRING・BOOST共通) キャリア・トランスファラブルスキルにかかる各種イベントに積極的に参加し、コミュニケーションを主体として多分野を学び、それらを自らの研究と再構成して新たな「知の領域」を得ようという意識のある方々の積極的な応募を期待しています。
- (BOOST) 我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う志を持ち、国内外の学会発表・論文・産学連携・国際共同研究等の研究成果をあげられる学生を募集します。



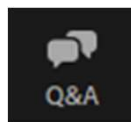
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

応募手続き（SPRING・BOOST）について

総合研究推進機構
博士人材支援室

※詳細は必ず応募要領をご参照の上、ご応募ください。



ご質問は「Q&A」に随時ご記入ください。

【留意点】SPRINGの制度見直しについて



- 科学技術振興機構（JST）が実施している「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」の制度見直しに伴い、JST-SPRINGの支援により実施している「東京都立大学領域リフレーミング（Arena Reframing:AR）双対型博士人材育成プロジェクト」においても、今後制度やプログラム内容の見直しが必要となる可能性があります。
- 今回募集する本プロジェクトは、国による制度の見直しにより、国籍や在留資格に基づく申請資格の変更、支援規模の縮小、内容の変更等の可能性があることを、予めご了承くださいうえでご申請ください。
- R8年度採用学生のうち、応募要領に記載の留学生等に該当する方については、研究奨励費（生活費相当額）の支給はありません（研究費のみの支給となります）

	<SPRING> AR双対型博士人材育成プロジェクト	<BOOST> AI-AR 双対型博士人材育成プロジェクト	<大学独自支援> みやこMIRAIプロジェクト		<大学独自支援> 博士研究力強化支援プロジェクト ※2027年度末廃止予定
			区分1	区分2	
募集概要	既存分野を超えた新たな視点を取り入れようとする人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	次世代AI分野に特化した先端的な研究を行う人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	研究環境に専念できる環境を提供し、本学博士後期課程への進学を促進し、高度な専門人材を育成するプロジェクト。経済的支援、キャリア形成支援を実施		日本学術振興会特別研究員DCに申請して採用されなかった個人に対して経済的支援を実施
対象研究科	全研究科	全研究科 *ただし、AI関連の研究を実施している/する予定であること	全研究科	全研究科	全研究科
対象者	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が<u>12ヶ月未満</u>の者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が<u>12ヶ月未満</u>の者 - 次世代AI分野またはそれに関連する分野の研究を実施している（あるいは実施予定の）者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月1日に博士後期課程に入学予定の者、又は在学期間が12ヶ月未満の者 <u>2026年採用分のDC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している者</u> - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において博士後期課程に在学している者 - DC、SPRING、BOOSTいずれかに採用されている者 - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において、博士後期課程2年次以上の年次相当に在学している者 2026年度が採用年度となる特別研究員DC2へ申請を行っていること
募集人数	18名程度（新D1）	3名（新D1）	申請資格・要件を満たす者、全員支援（原則）		20名程度
経済的支援	- 研究奨励費（雑所得）年額240万円 - 研究費 年額30万 ※留学生等においては研究費のみ配分	- 研究奨励費（雑所得）年額330万円 - 研究費 年額60万円	- 研究奨励費（雑所得）年額240万円 - 研究費 年額30万円（希望者のみ） - 授業料不徴収（免除）	- 研究奨励費（2年次以降、雑所得）年額180万円 ※BOOST生は年額150万円 - 研究費は各プロジェクトによる - 授業料不徴収（免除）	- 研究力強化支援奨学金（奨学金）年額180万円 ※研究費の配分無し
キャリア形成支援	メンタリング支援、キャリア・トランスファラブルスキルプログラム等の提供（履行義務あり）				無し
支援期間	標準修業年限までの最大3年間（ただし10月入学の場合は2年6か月）				1年間（単年度） （標準修業年限まで最大2回受給可）
募集期間	2025年10月28日（火）～ 11月14日（金）12:00（正午）（メ切厳守）				2026年2月を予定
備考	- 重複応募は可能ですが、同時受給は不可です。また、重複応募する場合、プロジェクトごとに申込を行う必要があります。 - 重複申請後、BOOSTに採用された場合、BOOSTが優先されます。		区分1に申請するためには、 <u>学振DC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している必要</u> があります		

I) 募集内容: SPRING/BOOST



	SPRING	BOOST
対象研究科	全研究科 (人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科、都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科)	
採用予定人数	(2026年4月1日時点) 博士後期課程 年次: 18名程度	(2026年4月1日時点) 博士後期課程 年次: 3名
採用期間	2026年4月1日から2029年3月31日までの最大3年間 (標準修業年限内での支援) ただし、2025年10月入学(秋入学)の方については最大2年6ヵ月間が支援期間となりますのでご注意ください。	
応募資格	以下の(1)のア、イのいずれかに該当し、(2)の要件を満たす者としてします。 (1) 応募時点において次に掲げるいずれかに該当する者 (該当する見込みである者を含む) ア 東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号)第3条第2項に規定する博士後期課程に2026年4月に入学を希望する者 イ 東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号)第3条第2項に規定する博士後期課程に在学し、2026年4月1日時点において在学期間が12ヵ月未満の者。 ただし、休学期間(休学期間の合計が6ヵ月以上の場合に限る)は、在学月数には含まない。 (2) <u>本プロジェクトの趣旨や義務を十分に理解し、それらに同意する者</u> ※そのほかの要件は応募要領を確認すること	以下の(1)のア、イいずれかに該当し、(2)～(3)の要件を全て満たす者としてします。 (1) 応募時点において次に掲げるいずれかに該当する者 (該当する見込みである者を含む) ア 東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号)第3条第2項に規定する博士後期課程に2026年4月に入学を希望する者 イ 東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号)第3条第2項に規定する博士後期課程に在学し、2026年4月1日時点において在学期間が12ヵ月未満の者。 ただし、休学期間(休学期間の合計が6ヵ月以上の場合に限る)は、在学月数には含まない。 (2) <u>次世代AI分野またはそれに関連する分野の研究を実施している者。ただし、実施予定の者も含む。</u> (3) <u>本プロジェクトの趣旨や義務を十分に理解し、それらに同意する者</u> ※そのほかの要件は応募要領を確認すること

支援概要: SPRING/BOOST



カテゴリー		SPRING	BOOST
経済的支援	研究奨励費 (生活費相当額)	年額240万円(月額20万円) *雑所得扱い ※留学生等については、研究奨励費(生活費相当額)の支給はございません。	年額330万円(月額27.5万円) *雑所得扱い
	研究費	年額 30万円 *別途インセンティブ経費として0~20万円の追加配分あり	年額 60万円
海外留学	理系大学院生海外 研修プログラム	過去の訪問先は北米シリコンバレー、シンガポール等(人文系にも試行的に拡大)	
メンタリング	学内メンター制度	無し	学内教員によるメンター制の実施
キャリアパス 開発	学外メンター面談	様々な専門分野やバックグラウンドをもつ外部メンター と面談を行い、研究やキャリアに関する相談を実施	異分野融合及び次世代AI分野等にバックグラウンド をもつ外部メンターと面談を行い、研究に関する相 談を実施
	キャリア講演会	様々な博士人材(企業、官公庁、URA等)による講演、懇談会を通じた多様なキャリアパスの提示	
	その他	起業イベントの実施や相談窓口の設置、企業と博士人材マッチングイベントへの参加支援、展示会等への出展支援 ほか	
インターン シップ	研究インターン シップの活用	C-ENGINE、ジョブ型研究インターンシップへのマッチング支援	G-RIPS Sendaiへの参加支援
トランスファラ ブルスキル	大学院全学共通科目	「博士人材のアカデミック・コミュニケーション」「理工系博士人材のキャリア形成」「企業における知的財産マネジメント」	
	多視座涵養講座	様々な分野での研究の最先端や課題、手法等の紹介から異分野の研究に関する基礎的な知識を身につけ、自身の研究分野への応用の可能性を検討する。	
	出前講義	高校生向けに自分の研究内容やキャリアを分かりやすく伝える講義を行う。	
	異分野連携の推進	研究リトリート、成果報告会 ほか	
研究力強化	ワークショップ等	- 学振特別研究員の申請支援、外部講師による申請書の書き方説明会 - アカデミックライティングセミナー、AI・データサイエンスセミナー、ポスター作成ワークショップ ほか	

【参考】トランスファラブルスキルについて



「移転可能スキル」。研究を通じて得られるスキルのうち、専門を超えた広い視野、コミュニケーション能力、企画力、リーダーシップ能力、国際的に活躍するための英語力など、汎用性が高く、ビジネス等でも重要とされることの多いスキル。

研究遂行に関するスキル <i>R</i> esearch governance and organisation	知識・知的能力 <i>I</i> ntelligence and knowledge	他者や社会との関係に係るスキル <i>S</i> ocial relationship	自己開発に係るスキル <i>E</i> ffectiveness
R-1 安全、コンプライアンス意識 および情報管理技術	I-1 理論的知識、情報収集力、数学的応用力 語学力・文章読解力	S-1 チームワーク力、他者との協働	E-1 研究への取り組み姿勢
- 健康、安全、法令遵守・研究倫理等の重要性が理解できる - 研究者としての情報管理 技術、知的財産権、秘密保持などの契約関係について理解し、高い意識を持つことができる	- 課題解決に必要な基礎知識を有し、必要な情報を収集することができる - 数理科学の知識をベースに数値解析できる	- チームの戦略・目標、役割分担を理解し、協働できる - 他のメンバーの強み・弱みを理解し、意思疎通を図ることができる	- 強みと弱みを自覚して、研究に活かすことができる - 熱意、持続力・忍耐力、責任感、主体性、専門家としての誠実さを持って行動できる
R-2 研究の基本的な進め方	I-2 分析/統合力、論理的思考力、問題解決力	S-2 コミュニケーション能力	E-2 自己管理、時間管理
研究の目的、背景を理解して、課題設定を行い、研究を取り巻く諸事の原因に配慮しながら研究計画を立てることができる	課題解決力、論理的思考、分析・統合力等を駆使して研究・開発を遂行できる	- 研究遂行にあたって研究室内外および異分野の関係者の理解を得ることができる - 様々な情報伝達手段を用いて十分な議論ができる	- 目的を達成するために明確な研究計画を立て、効果的な時間管理を行える - ストレスマネジメントとワークライフバランスを考慮して自己管理ができる
R-3 資金管理・開達	I-3 洞察力 探究心 議論展開力	S-3 研究結果の社会への還元	E-3 キャリア開発 専門能力開発
研究を進める際、および、事業を行うにあたっての資金管理・開達の仕組み、実態の理解ができる	自らの経験を活かし、新しいアイデアと裏付けとなる根拠を提示して、社会にインパクトを与える、画期的/創造的な議論ができる	- 研究結果を社会に実装するプロセスを理解できる - 社会的利益を生み出す可能性のある新製品開発や既存の研究の新しい活用法について提案・発案することができる - グローバル展開の重要性が理解できる	- 専門的能力の持続的開発が必要であることを認識している - 経験を分析的に振り返り、自己改革のサイクルを追求する - キャリアプランを描くことができる - 幅広い研究コミュニティで、信頼関係に基づく協力的なネットワークを構築する

RISEの各項目とその内容は、VitaeのResearcher Development Framework(www.vitae.ac.uk/ndf)を参考に作成しました。一般社団法人産学協働イノベーション人材育成協議会



2) 採用後の履行義務について:SPRING

1. 東京都立大学における研究活動上の不正行為に関する規則等に定める責務を果たすこと。
2. 本学が指定する**研究倫理教育のうち指定単元を履修**すること。
3. 事業統括が指定する本学**大学院キャリア形成支援科目を履修**すること。
4. 事業統括が指定する**研究力向上・キャリアパスに関する講義・イベントに参加**すること。
5. JSTが本プロジェクトのために実施する学生交流会等の諸行事に参加すること。
6. 毎年度、所定の**研究活動報告書を、期日までに提出**すること。
7. 毎年度、事業統括が指定する**成果報告会にて年次報告を行う**こと。
8. 最終年度を除き毎年度、**外部メンターとの面談を行う**こと。
9. **ジョブ型研究インターンシップのシステムに登録**すること。
10. 文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)の博士人材データベース(JGRAD)に登録すること。
11. 本学及びJSTが実施する各種調査に協力すること。
12. 本学及びJSTが実施する博士課程修了後の追跡調査に協力すること。
13. JSTに連絡可能なメールアドレスを提供すること。



2) 採用後の履行義務について: BOOST

1. 東京都立大学における研究活動上の不正行為に関する規則等に定める責務を果たすこと。
2. 本学が指定する**研究倫理教育のうち指定単元を履修**すること。
3. 事業統括が指定する**研究力向上・キャリアパスに関する講義・イベントに参加**すること。
4. JSTが本プロジェクトのために実施する学生交流会等の諸行事に参加すること。
5. 毎年度、所定の**研究活動報告書を、期日までに提出**すること。
6. 毎年度、事業統括が指定する**成果報告会にて年次報告を行う**こと。
7. 毎年度、**メンターとの面談を行う**こと。
8. 文部科学省科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) の博士人材データベース (JGRAD) に登録すること。
9. 本学及びJSTが実施する各種調査に協力すること。
10. 本学及びJSTが実施する博士課程修了後の追跡調査に協力すること。
11. JSTに連絡可能なメールアドレスを提供すること。

【参考】2026年度の事業統括指定の科目及びイベント一覧



※各種トランスファラブルスキル提供の内容や時期は、変更になる場合があります。

カテゴリー	科目・講義・イベント等	参加		時期
		SPRING	BOOST	
海外留学	理系大学院生海外研修プログラム	推奨	推奨	4月募集 10～11月頃実施
メンタリング	学内メンターとの面談	無し	必須	各自設定
キャリアパス開発	外部メンターとの面談	必須	必須	8～10月頃
	博士人材のキャリア講演会(複数回実施)	うち1回必須	推奨	後期
	起業イベント・企業とのマッチングイベント	推奨	推奨	通年
インターンシップ	ジョブ型研究インターンシップへの登録	必須	推奨	4月登録
トランスファラブル スキル	大学院全学共通科目「博士人材のアカデミック・コミュニケーション」	必須	推奨	4月履修登録 通年開講
	大学院全学共通科目「理工系博士人材のキャリア形成」 「企業における知的財産マネジメント」	推奨	推奨	後期
	多視座涵養講座(複数回実施)	うち1回必須	うち1回必須	後期
	出前講義へのエントリー	必須	推奨	4月エントリー 随時実施
	研究リトリート	推奨	推奨	後期
	AI分野関連の講演会	推奨	うち1回必須	後期
	成果報告会	必須	必須	3月
研究力強化	学振特別研究員申請書作成支援	推奨	推奨	4～5月、11～1月
	各種研究力向上ワークショップ	推奨	推奨	通年



**履行義務を果たさない場合、
採用取消になることがあります。
(過去に該当案件があります)**

1. プロジェクトの趣旨をよく理解したうえで応募してください。
2. いずれのプロジェクトも教育プログラムの一環であることを理解してください。
3. 必要な連絡に対し必ず期日までに対応してください。
4. 本人と連絡が取れない場合、指導教員へ連絡します。



3) 選考方法・選考基準:SPRING

• 選考方法

以下の①を行い、①の通過者のみ②の審査を行い、その後合議審査により決定します。

- ① 書類審査:選考申込書による書類審査
- ② 面接審査:自身の研究及び今後の計画などのプレゼンテーション・質疑応答

• 選考基準

1. 学術研究を独創的に遂行することができるか。
2. 異分野融合(隣接諸分野の横断・連携を含む)を志向する姿勢があるか。
3. 学術研究の公共的な価値を熟考しているか。
4. 他者(専攻分野および異分野の学生・教員・企業人を含む)と協調して主体的に問題解決に取り組むことができるか。
5. 博士号取得後の将来像を描いているか。
6. 研究領域を主専門と多分野の両軸で捉え直そう(考え直そう)としているか。

※ 選考時点・プログラム終了時に異分野融合や新たな知の創出といった研究実績を求めるものではありません。
それらに対する態度(姿勢)を評価します。



3) 選考方法・選考基準:BOOST

• 選考方法

以下の①を行い、①の通過者のみ②の審査を行い、その後合議審査により決定します。

- ① 書類審査:選考申込書による書類審査
- ② 面接審査:自身の研究及び今後の計画などのプレゼンテーション・質疑応答

• 選考基準

1. 学術研究を独創的に遂行することができるか。
2. 異分野融合(隣接諸分野の横断・連携を含む)を志向する姿勢があるか。
3. 学術研究の公共的な価値を熟考しているか。
4. 他者(専攻分野および異分野の学生・教員・企業人を含む)と協調して主体的に問題解決に取り組むことができるか。
5. 博士号取得後の将来像を描いているか。
6. 研究領域を主専門と多分野の両軸で捉え直そう(考え直そう)としているか。
7. 次世代AI分野との接合を思索しているか。

※ 基本的に、国内外の学会発表・論文・産学連携・国際共同研究等の研究成果をあげられる学生(支援期間中、自身のAI研究についての学会発表や論文発表を基本的に必須とします。)を想定しています。

4) 応募手続き: SPRING/BOOST



**SPRINGとBOOSTでは
選考プロセスが異なるため、
応募はプロジェクトごとに行ってください。**

4) 応募手続き: SPRING/BOOST



1. 必要書類は、こちらよりダウンロードしてください:

<https://research-miyacology.tmu.ac.jp/human-resources-support/student-recruitment/>

① 選考申込書

② 同意書

※SPRINGとBOOSTで様式が異なります。重複申請する方は、それぞれ提出してください。

2. 専用システム (LoGoフォーム) から応募してください。応募にはアカウント登録が必要です。

	応募手続き	注意点
応募書類	①選考申込書 ②同意書 (指導教員に作成を依頼してください)	①、②はPDFファイルに変換の上提出してください。
提出方法・提出先	上記専用システム (公募要領にURL掲載) から必要事項を入力したうえで、応募書類①、②をアップロードし、送信してください。	一度しか送信できません。必ず応募要領に記載の注意事項をよく読んだうえで、ご応募ください。
締切	2025年11月14日 (金) 12:00 (正午) (日本時間) 【締切厳守】	送信後、返信メールが届かない場合は、事務局まで個別にご連絡ください。

※応募要領に記載の注意事項を十分にご確認のうえ、ご応募ください。

【参考】LoGoフォームについて



- 応募フォームへの入力にあたっては、外部リンク（LoGoフォーム：電子申請システム）へのアカウント登録が必要となります。
- 重複申請される場合は、いずれかのプロジェクト応募時に一度のみアカウント登録を行っていただき、SPRINGとBOOST、それぞれのフォームからご応募ください。
- 各応募フォームは一度しか送信できませんので、ご注意ください。
- 通知メールは、アカウント登録時に設定したメールアドレス宛にno-reply@logoform.jpから送信されます。このアドレスからのメールを受信できるよう、予め受信設定をお願いします。



5) 同意書について:SPRING/BOOST

- 本プロジェクトへの応募前に、必ず指導教員（2026年4月1日から指導を受ける予定の教員）に所定の「同意書」の作成を依頼し、「選考申込書」と一緒にアップロードして提出してください。
- **同意書には指導教員の所見が必要となります。**
※SPRINGとBOOSTで様式が異なります。重複申請する方は、それぞれ提出してください。
- 「同意書」における「2. 指導教員の所見」については、記載情報を審査委員が必要に応じて参照する取扱いとします。
- 本プロジェクトにおいて指導教員に以下の協力を求めますので、事前に指導教員に相談してください。
 1. 毎年度事業統括の指定する成果報告会に指導教員もご出席いただきます。
 2. 学生がジョブ型研究インターンシップに登録することについてご了解いただきます。【BOOSTは推奨事項】
 3. 採用学生が研究力向上やキャリア開発・育成コンテンツ科目の受講や活動を行うことについて、理解を求めます。
 4. 【BOOSTのみ】指導学生に、学内外の有識者がメンターとなることについてご了承いただきます。

6) 申込後のスケジュール: SPRING/BOOST



実施期間	項目	備考
2025年11月14日(金)12:00(正午)	<u>応募締め切り</u>	厳守
2025年11月15日(土)～12月8日(月)	書類審査	
2025年12月19日(金)頃	面接審査通知	書類審査通過者のみ個別に面接時間等を通知します。
2026年1月10日(土)	【BOOST】面接審査 ※書類審査通過者のみ <u>※対面実施(南大沢キャンパス)</u>	・フォームに記載されたメールアドレスに通知します。 ・通知した面接審査日時の変更は、いかなる理由でも受け付けません。
2026年1月11日(日)	【SPRING】面接審査 ※書類審査通過者のみ <u>※対面実施(南大沢キャンパス)</u>	
2026年1月下旬	採否結果通知	フォームに記載されたメールアドレスに通知します。
2026年2月初旬	誓約書提出	
2026年3月下旬	口座登録依頼書等提出	
2026年4月	採用者ガイダンス	ガイダンスの詳細は採用学生に別途通知します。

7) 注意事項①: SPRING・BOOST共通



1. 研究奨励費は税法上「**雑所得**」として扱われるため所得税、住民税の課税対象となり、毎年度、採用学生自身による確定申告が必要となります。確定申告の方法については、国税庁のホームページを参照してください。
2. 研究奨励費は税法上雑所得として扱われること等を扶養義務者（親等）に伝えるとともに、健康保険や扶養手当等における扶養の扱いについては、扶養義務者（親等）の職場等の担当者にお問い合わせください。また、所得税における扶養の扱いについては、近隣の税務署にお問い合わせください。
3. 本プロジェクトにおいては、採用学生と本学との間に雇用関係は生じませんので、社会保険等は採用学生自身による手続き・管理が必要となります。
具体的な手続きについては、居住する市（区）役所又は町村役場にお問い合わせください。
4. 【BOOSTのみ】留学生については、採用後、採用日までに来日できない場合、来日していない日を含む月の研究奨励費は支給できません。月の途中で来日した場合は、翌月からの支給開始となります。



7) 注意事項②: SPRING・BOOST共通

• 博士課程学生に対する特に優れた業績による奨学金返還免除制度の取扱いについて

令和4年度財務省予算執行調査において行われた「博士課程学生への経済的支援」に係る調査結果において、「できるだけ多くの博士課程学生に支援が行き渡るようにすべき」との指摘を踏まえ、大学院博士課程で第一種奨学金の貸与を受けている者が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」、「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」又は「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業（BOOST）次世代AI人材育成プログラム（博士後期課程学生支援）」（以下、「フェローシップ事業等」という。）による支援を受ける場合は、「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」（以下、「業績免除」という。）における返還免除認定の対象外とすることとしました。

（JASSOのHPより抜粋：<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/saiyochu/gyosekimenjo/seidogaiyo/choufukukinshi.html>）

• 業績免除認定の対象外となる者

令和5年度以降に博士（後期）課程及び博士医・歯・薬・獣医学課程（以下、「博士課程」という。）において第一種奨学生として採用された者（※）で、博士課程在学中にフェローシップ事業等の支援を受けた者

※一貫制博士課程の学生で、博士後期課程相当への進級は令和5年度以降であるが、令和4年度までに当該課程で第一種奨学生として採用された者は除く。

- （注1）フェローシップ事業等の支援期間にかかわらず業績免除認定の対象外となります。フェローシップ事業等の支援期間と第一種奨学金の貸与期間が重複していない場合であっても同様です。
- （注2）博士課程返還免除内定者がフェローシップ事業等の支援を受けた場合は、内定は取消しとなり業績免除認定の対象外となります。

応募に関する注意事項



1. 応募受付終了後はどのような事情があっても、入力事項及び書類の変更は認めません。
2. 事情により、応募手続等について変更があった場合は、本学の総合研究推進機構HP (<https://research-miyacology.tmu.ac.jp/>) 及びLoGoフォームから通知します。
3. 審査に係る各種通知（面接審査や選考結果）は、LoGoフォームを通じて行います。選考結果通知等ダウンロードが必要な書類については、各自ダウンロードしてください。
4. 応募にあたって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①選考（申請処理、選考実施）、②採用者発表、③採用手続業務、を行うために利用することがあります。また、同個人情報は、採用者のみ、①教務関係（学籍、修学等）、②学生支援関係（就職支援等）、③本プロジェクトに関する業務（研究力向上、キャリア支援、教育工学的視点からのプロジェクト評価改善等）を行うために利用することがあるとともに、文部科学省、JSTに提供することがあります。
5. （SPRING・BOOSTのみ）本プロジェクトの採用学生となった場合、透明性確保の観点から所属や氏名、研究課題名等は公表されることがあります。
6. 応募書類における記載内容について虚偽の記載をした者は、採用後においても遡って採用を取消することがあります。



他プロジェクトの概要について

- みやこMIRAI (Motivating Integrated young Researchers towards Adaptive intelligence Initiative) プロジェクト
- 博士研究力強化支援プロジェクト

上記2つのプロジェクトは、2026年2月に募集を予定しています。
別途、学内募集説明会を実施予定です。

	<SPRING> AR双対型博士人材育成 プロジェクト	<BOOST> AI-AR 双対型博士人材育成 プロジェクト	<大学独自支援> みやこMIRAIプロジェクト		<大学独自支援> 博士研究力強化支援 プロジェクト ※2027年度末廃止予定
			区分1	区分2	
募集 概要	既存分野を超えた新たな視点を取り入れようとする人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	次世代AI分野に特化した先端的な研究を行う人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	研究環境に専念できる環境を提供し、本学博士後期課程への進学を促進し、高度な専門人材を育成するプロジェクト。経済的支援、キャリア形成支援を実施		日本学術振興会特別研究員DCに申請して採用されなかった個人に対して経済的支援を実施
対象研究 科	全研究科	全研究科 *ただし、AI関連の研究を実施している/する予定であること	全研究科	全研究科	全研究科
対象者	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が<u>12ヶ月未満</u>の者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が<u>12ヶ月未満</u>の者 - 次世代AI分野またはそれに関連する分野の研究を実施している（あるいは実施予定の）者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月1日に博士後期課程に入学予定の者、又は、在学期間が12ヶ月未満の者 <u>2026年採用分のDC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している者</u> - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において博士後期課程に在学している者 - DC、SPRING、BOOSTいずれかに採用されている者 - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において、博士後期課程2年次以上の年次相当に在学している者 2026年度が採用年度となる特別研究員DC2へ申請を行っていること
募集 人数	18名程度（新D1）	3名（新D1）	申請資格・要件を満たす者、全員支援（原則）		20名程度
経済的 支援	- 研究奨励費（雑所得） 年額240万円 - 研究費 年額30万 ※留学生等においては研究費のみ配分	- 研究奨励費（雑所得） 年額330万円 - 研究費 年額60万円	- 研究奨励費（雑所得） 年額240万円 - 研究費 年額30万円（希望者のみ） - 授業料不徴収（免除）	- 研究奨励費（2年次以降、雑所得）年額180万円 ※BOOST生は年額150万円 - 研究費は各プロジェクトによる - 授業料不徴収（免除）	- 研究力強化支援奨学金（奨学金） 年額180万円 ※研究費の配分無し
キャリア 形成支援	メンタリング支援、キャリア・トランスファラブルスキルプログラム等の提供（履行義務あり）				無し
支援 期間	標準修業年限までの最大3年間（ただし10月入学の場合は2年6か月）				1年間（単年度） （標準修業年限まで最大2回受給可）
募集期間	2025年10月28日（火）～ 11月14日（金）12:00（正午）（メ切厳守）				2026年2月を予定
備考	- 重複応募は可能ですが、同時受給は不可です。また、重複応募する場合、プロジェクトごとに申込を行う必要があります。 - 重複申請後、BOOSTに採用された場合、BOOSTが優先されます。				区分1に申請するためには、 <u>学振DC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している必要</u> があります

みやこMIRAIプロジェクト



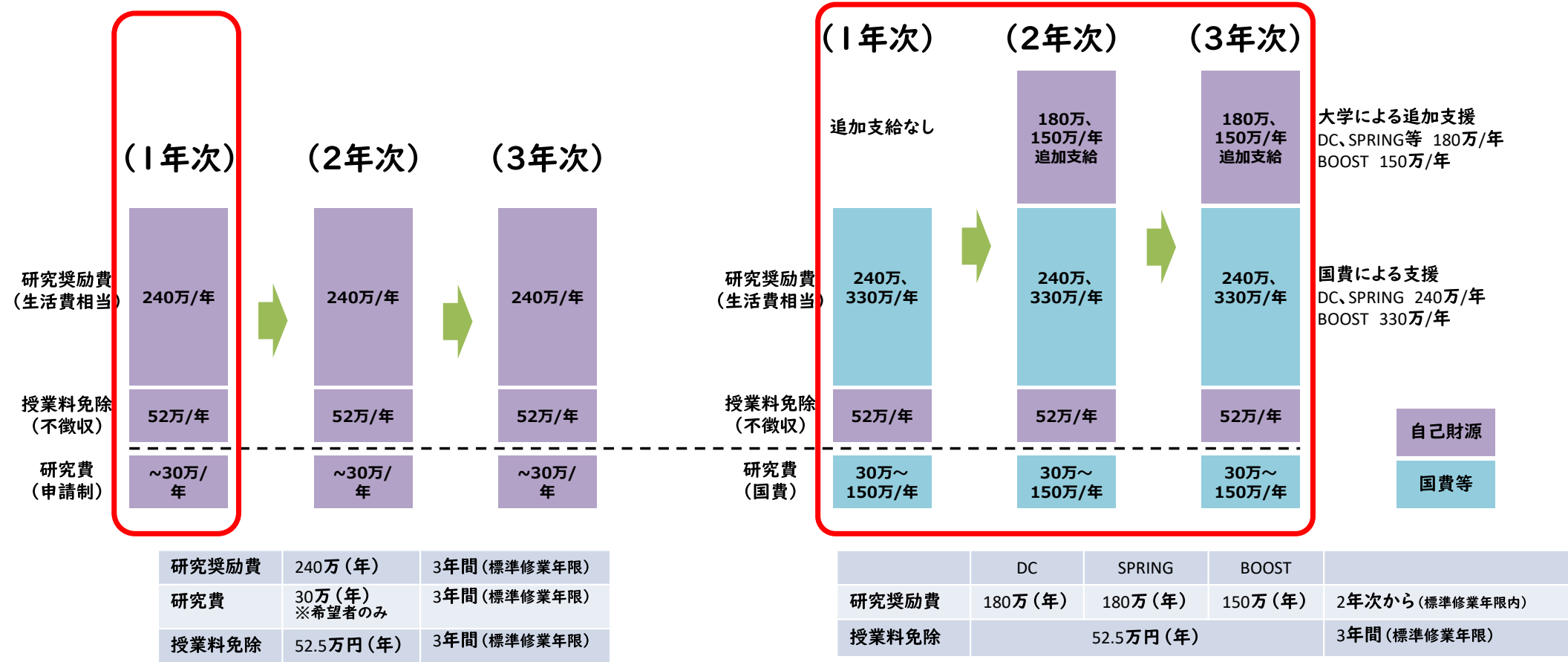
- みやこMIRAI (Motivating Integrated young Researchers towards Adaptive intelligence Initiative:MIRAI) プロジェクトは、研究に専念できる環境を提供することで本学博士後期課程への進学を促進し、高度な研究力と多視座間での相互の学びにより、革新的なイノベーションを起こし、真理の探求と科学の進歩に貢献できる高度な専門人材を育成します。
- 区分Ⅰに関しては、指導教員と協力しながら3年間研究を進めるプロジェクトです（学振DC、SPRING、BOOSTとは異なります）。
- 支援期間中には論文投稿、学会発表、産学連携、プレスリリース等の研究成果を毎年度確認します。
- 支援期間終了後、キャリアの追跡調査を実施します。

【みやこMIRAIプロジェクトの3年間の支援イメージ】

【区分2】～学振 DC、SPRING、BOOST採用学生等

※区分1は新D1のみ

※区分2は、全学年が支援対象



プロジェクトの支援概要



経済的支援

- 区分1:研究奨励費(生活費相当額)(240万円/年)および希望者のみ研究費(30万/年)の支給
- 区分2:研究奨励費(DC及びSPRING採用学生180万円/年、BOOST採用学生150万円/年)の上乗せ支給(2年次～)
- 標準修業年限内の授業料免除

キャリア・トランスファラブルスキル支援

- キャリアパス支援:キャリアに関する相談窓口の設置、博士後期課程支援に特化した外部人材との1on1 の実施
- Nature Masterclass Onlineの提供
- アントレプレナーシップ関係:起業イベントの実施、起業支援、相談窓口の設置
- 異分野連携の促進:異分野交流マッチングイベント

研究力強化の取り組み

- 学振特別研究員の申請支援、外部講師による書き方説明会
- アカデミックライティングやデータサイエンスセミナー等の実施

インターンシップ機会の提供

- 研究インターンシップの活用:ジョブ型研究インターンシップ等を通じた研究インターンシップ
- マッチングイベントへの参加:企業と博士人材マッチングイベントへの参加支援の実施

プロジェクト説明



区分	内容
区分1	本学は、本プロジェクトを通じて、学生が研究活動に専念して研究力の向上を図ることができる環境（「6. 経済的支援等」を参照）を提供します。学生は以下のいずれかのコースを自身で選択し、それぞれのコースにて提供されるキャリア形成支援及びトランスファラブルスキルの獲得、国際性等を身につけます。よって本プロジェクト採用学生は、研究力の向上に邁進するとともに、それぞれのコース※において提供されるプログラムに積極的に取り組むことが求められます。 ① 国際視座涵養（Global Perspective：GP）コース：研究における国際性をより高め、当該分野において世界の先端を担う研究を志す人材を育成する。 ② 多視座涵養（Transferable Skills：TS）コース：多様な研究分野とのコラボレーションやコミュニケーション力を高め、企業等において高度なトランスファラブルスキルを提供可能な人材を育成する。 ③ 社会デザイン（Future Design：FD）コース：人類社会の進歩と発展に寄与するため、自ら設定した社会的課題に向けて新しい価値を創造・デザインする人材を育成する。 ※申請時に、①～③のコースのいずれかを選択いただきます
区分2	本学は、本プロジェクトを通じて、学生が採用されているプロジェクトへの研究活動等に専念して一層の研究力・コミュニケーション力の向上を図ることができる環境を提供します。

プロジェクト申請資格（区分Ⅰ）



以下の（１）のア、イのいずれかに該当し（該当する見込みである者を含む）、（２）のア、イ、ウのいずれかに該当し、（３）～（５）の要件を満たす者としてします。

区分Ⅰ	（１）	ア 東京都立大学大学院学則（平成17年度法人規則第49号 第3条第2項に規定する博士後期課程に2026年4月に入学を希望する者） イ 東京都立大学大学院学則（平成17年度法人規則第49号） 第3条第2項に規定する博士後期課程に在学し、2026年4月1日時点において在学期間が12カ月未満の者。 ただし、休学期間（休学期間の合計が6カ月以上の場合に限る）は、在学月数には含まない
	（２）	2026年度が採用年度となる以下いずれかに申請している者 ア 日本学術振興会特別研究員-DC1 イ 東京都立大学領域リフレーミング（Arena Reframing:AR）双対型博士人材育成プロジェクト（SPRING） ウ 東京都立大学次世代AIを志向した領域リフレーミング（Arena Reframing:AR）双対型博士人材育成プロジェクト（BOOST）
	（３）	博士後期課程に入学した時点において30歳未満である者 ※出産・育児・介護等ライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、1～2年程度、上記の年齢要件について配慮することとする。
	（４）	国籍等について、次のいずれかに該当する者 ア 日本国籍を有する者 イ 日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法（平成3年 法律第71号）に定める特別永住者として本邦に在留する者 ウ 出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号）別表第二の永住者、日本人の配偶者等又は永住者の配偶者等の在留資格をもって本邦に在留する者 エ 出入国管理及び難民認定法別表第二の定住者の在留資格をもって本邦に在留する者であって、将来永住する意思があると学校の長が認めた者 オ 出入国管理及び難民認定法別表第一の四の表の家族滞在の在留資格をもって本邦に在留する者であって、日本学生支援機構が定める要件全てに該当する者
	（５）	本プロジェクトの趣旨や義務を十分に理解し、それらに同意する者

ただし、支援開始日時点において、次の（６）～（８）のいずれかに該当する者は、対象外とします。

区分Ⅰ	（６）	所属機関等から生活費相当額として年間240万円以上の給与、役員報酬又はその他の安定的な収入を得ている者 ※資格確認のため収入に関する証明書類等の提出を求めることがあります。
	（７）	東京都立大学大学院学則（平成17年度法人規則第49号）第15条に規定する長期履修制度適用者 ※出産、育児、介護等の事由による長期履修制度適用者は除きます。
	（８）	その他本プロジェクトの対象外となる者 ※重複受給不可とされている奨学金等による支援を受ける者を指します。

プロジェクト申請資格(区分2)



以下の(1)のア、イのいずれかに該当し(該当する見込みである者を含む)、(2)のア～エのいずれかに該当し、(3)～(5)の要件を満たす者としてします。

区分2	(1)	ア 東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号 第3条第2項に規定する博士後期課程に2026年4月に入学を希望する者 イ 東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号) 第3条第2項に規定する博士後期課程に在学し、2026年4月1日時点において在学期間が36ヵ月未満の者。 ただし、休学期間(休学期間の合計が6ヵ月以上の場合に限る)は、在学月数には含まない。
	(2)	支援開始日時点において、以下いずれかに該当する者 ア 日本学術振興会特別研究員-DC1又はDC2(DC)採用者 イ 東京都立大学領域リフレーミング(Arena Reframing: AR) 双対型博士人材育成プロジェクト(SPRING) 採用者 ウ 東京都立大学次世代AIを志向した領域リフレーミング(Arena Reframing: AR) 双対型博士人材育成プロジェクト(BOOST) 採用者 エ その他、学長が別に定める条件を満たすと判断した者(ただし、区分1からの区分変更に限る。)
	(3)	博士後期課程に入学した時点において30歳未満である者 ※出産・育児・介護等ライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、1～2年程度、上記の年齢要件について配慮することとする
	(4)	国籍等について、次のいずれかに該当する者 ア 日本国籍を有する者 イ 日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法(平成3年法律第71号)に定める特別永住者として本邦に在留する者 ウ 出入国管理及び難民認定法(昭和26年政令第319号)別表第二の永住者、日本人の配偶者等又は永住者の配偶者等の在留資格をもって本邦に在留する者 エ 出入国管理及び難民認定法別表第二の定住者の在留資格をもって本邦に在留する者であって、将来永住する意思があると学校の長が認めた者 オ 出入国管理及び難民認定法別表第一の四の表の家族滞在の在留資格をもって本邦に在留する者であって、日本学生支援機構が定める要件全てに該当する者
	(5)	本プロジェクトの趣旨や義務を十分に理解し、それらに同意する者

ただし、支援開始日時点において、次の(6)～(8)のいずれかに該当する者は、対象外とします。

区分2	(6)	所属機関等から生活費相当額として年間240万円以上の給与、役員報酬又はその他の安定的な収入を得ている者 ※資格確認のため収入に関する証明書等の提出を求めることがあります。 ※DC、SPRING、BOOST等で支給される研究奨励費は除きます。
	(7)	東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号) 第15条に規定する長期履修制度適用者 ※出産、育児、介護等の事由による長期履修制度適用者は除きます。
	(8)	その他本プロジェクトの対象外となる者※ ※重複受給不可とされている奨学金等による支援を受ける者を指します。

【参考】履行義務について(区分Ⅰ)



本プロジェクト支援学生は、次に掲げる全ての事項を行わなければなりません。

1. 東京都立大学における研究活動上の不正行為に関する規則等に定める責務を果たすこと
2. 本学が指定する研究倫理教育のうち指定単元を履修すること
3. 各コースで指定する履行義務を果たすこと※
4. 毎年度、所定の研究活動報告書を、期日までに提出すること
5. 最終年度を除き、毎年度日本学術振興会特別研究員DC2に申請すること
6. 本学が実施する各種調査に協力すること
7. 本学が実施する博士課程修了後の追跡調査に協力すること※
8. 常に連絡可能なメールアドレスを提供すること※

※ 支援期間終了後にも連絡することがありますので、連絡先のメールアドレスが変更になった場合は必ず事務局へご連絡ください。

※ 3の各コースにおいて指定する履行義務は次のページのとおり。

【参考】履行義務について(区分Ⅰ)



コース名	内容	毎年度の履行義務	3年間の履行義務
国際視座涵養(GP)コース (GP=Global Perspective)	研究における国際性をより高め、当該分野において世界の先端を担う研究を志す人材を育成する	国際学会(国内開催を含む)での発表	- 支援期間中にQ2以上のジャーナルもしくは指導教員がそれに相当すると認めた正式な学術誌(この場合その理由書を付すこと)に投稿すること。 - Nature Masterclasses onlineの受講(1単元)
多視座涵養(TS)コース (TS=Transferable Skills)	多様な研究分野とのコラボレーションやコミュニケーション力を高め、企業等において高度なトランスファブルスキルを提供可能な人材を育成する	- 企業と博士のマッチングイベントあるいはそれに相当するマッチングイベントへの参加 - 博士人材支援室担当教員との面談	- 支援期間中に研究インターンシップに参加すること。 - Nature Masterclasses onlineの受講(2単元)
社会デザイン(FD)コース (FD=Future Design)	人類社会の進歩と発展に寄与するため、自ら設定した社会的課題に向けて新しい価値を創造・デザインする人材を育成する	超異分野学会への口頭発表ないしは参加、あるいはそれに相当する研究会での口頭発表	Nature Masterclasses onlineの受講(4単元)

※履行義務は変更になることがあります



- みやこMIRAIプロジェクト(区分Ⅰ)に申請するためには、2026年度採用の以下いずれかに申請していることが必要です。
 - 日本学術振興会特別研究員DCⅠ
 - 東京都立大学AR双対型博士人材育成プロジェクト (SPRING)
 - 東京都立大学AI-AR東京都立大学AR双対型博士人材育成プロジェクト (BOOST)

	<SPRING> AR双対型博士人材育成プロジェクト	<BOOST> AI-AR 双対型博士人材育成プロジェクト	<大学独自支援> みやこMIRAIプロジェクト		<大学独自支援> 博士研究力強化支援プロジェクト ※2027年度末廃止予定
			区分1	区分2	
募集概要	既存分野を超えた新たな視点を取り入れようとする人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	次世代AI分野に特化した先端的な研究を行う人材に対し、経済的支援、研究費支援及びキャリア形成支援を実施	研究環境に専念できる環境を提供し、本学博士後期課程への進学を促進し、高度な専門人材を育成するプロジェクト。経済的支援、キャリア形成支援を実施		日本学術振興会特別研究員DCに申請して採用されなかった個人に対して経済的支援を実施
対象研究科	全研究科	全研究科 *ただし、AI関連の研究を実施している/する予定であること	全研究科	全研究科	全研究科
対象者	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が<u>12ヶ月未満</u>の者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月に本学博士後期課程に入学を希望する者、あるいは、2026年4月1日時点で本学博士後期課程での在学月数が<u>12ヶ月未満</u>の者 - 次世代AI分野またはそれに関連する分野の研究を実施している（あるいは実施予定の）者 - そのほかの要件は応募要領を確認すること	2026年4月1日に博士後期課程に入学予定の者、又は在学期間が12ヶ月未満の者 <u>2026年採用分のDC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している者</u> - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において博士後期課程に在学している者 - DC、SPRING、BOOSTいずれかに採用されている者 - 博士後期課程に入学した時点において30歳未満の者 - 日本国籍又は永住者等	2026年4月1日時点において、博士後期課程2年次以上の年次相当に在学している者 2026年度が採用年度となる特別研究員DC2へ申請を行っていること
募集人数	18名程度（新D1）	3名（新D1）	申請資格・要件を満たす者、全員支援（原則）		20名程度
経済的支援	- 研究奨励費（雑所得）年額240万円 - 研究費 年額30万 ※留学生等においては研究費のみ配分	- 研究奨励費（雑所得）年額330万円 - 研究費 年額60万円	- 研究奨励費（雑所得）年額240万円 - 研究費 年額30万円（希望者のみ） - 授業料不徴収（免除）	- 研究奨励費（2年次以降、雑所得）年額180万円 ※BOOST生は年額150万円 - 研究費は各プロジェクトによる - 授業料不徴収（免除）	- 研究力強化支援奨学金（奨学金）年額180万円 ※研究費の配分無し
キャリア形成支援	メンタリング支援、キャリア・トランスファラブルスキルプログラム等の提供（履行義務あり）				無し
支援期間	標準修業年限までの最大3年間（ただし10月入学の場合は2年6か月）				1年間（単年度） （標準修業年限まで最大2回受給可）
募集期間	2025年10月28日（火）～ 11月14日（金）12:00（正午）（メ切厳守）				2026年2月を予定
備考	- 重複応募は可能ですが、同時受給は不可です。また、重複応募する場合、プロジェクトごとに申込を行う必要があります。 - 重複申請後、BOOSTに採用された場合、BOOSTが優先されます。		<u>区分1に申請するためには、学振DC、SPRING、BOOSTのいずれかに申請している必要</u> があります		

博士研究力強化支援プロジェクト



- 東京都立大学博士研究力強化支援プロジェクトは、独立行政法人日本学術振興会特別研究員への申請を促進することを目的として実施するものであり、個人の研究環境を提供するプロジェクトです。
- 特別研究員DC2に申請して不採用だった個人に対し、研究活動に専念して研究力の向上を図ることができる環境を提供するための経済的支援（生活費相当額）を実施します。

※博士研究力強化支援プロジェクトは、2027年度末の廃止を予定

博士研究力強化支援プロジェクトの概要



	東京都立大学 博士研究力強化支援プロジェクト
対象研究科	全研究科 (人文科学研究科、法学政治学研究科、経営学研究科、理学研究科、都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科)
採用予定人数	20名
採用期間	2026年4月1日から2027年3月31日までの1年間(単年度) ※標準修業年限まで最大2回申請することができる予定です。
経済的支援	研究力強化支援奨学金(生活費相当額):年額180万円(月額15万円)
申請資格	以下の(1)に該当し、(2)の要件を満たす者とします。 (1) 2026年4月1日時点において、東京都立大学大学院学則(平成17年度法人規則第49号)第3条第2項に規定する博士後期課程2年次以上の年次相当(12か月以上36か月未満)に在学し、2026年度が採用年度となる特別研究員DC2へ申請を行っていること。 (2) 本プロジェクトの趣旨や義務を十分に理解し、それらに同意する者

選考方法・選考基準



- **選考方法**

選考基準に基づき、博士人材支援室の議を経て学長が決定します。

- **選考基準**

特別研究員の書類選考の結果通知による特別研究員DC2の補欠者及び不採用者から、次の各号の順番で選出します。

- (1) 特別研究員DC2の第二次選考結果が補欠であった者
- (2) 特別研究員DC2の第二次選考結果が不採用であった者
- (3) 特別研究員DC2の第一次選考結果が不採用であった者

ただし、(3)に該当する者が2名以上いる場合は、Tスコアが上位である者を優先します。

お問い合わせ先



- 博士人材支援室長

堀田 貴嗣

- 理学研究科・物理学専攻・教授
- 副学長（研究・情報・都連携担当）
- 総合研究推進機構長
- SPRING・BOOST事業統括

- 東京都立大学博士人材支援室事務局

E-Mail : soutsui_entry@jmj.tmu.ac.jp

電話 : 042-677-1111 (内線: 5665・5676・5685・5670)

※公募に係る質問は、事務局までメールにてお問い合わせください。

※土日祝にいただいたお問い合わせにつきましては、翌営業日以降の対応となります。

質疑応答

ご質問は「Q&A」にご入力をお願いします。
時間の都合上、全ての質問に回答できない場合がございます。
後日、FAQとしてHPに掲載します。

